

令和4年度 埼玉県農業大学校評価システムシート

教育方針	1 農業経営に必要な技術と知識を備えた実践力のある人材の育成 2 グローバルな視点と企業的経営感覚を身につけた人材の育成 3 地域の農業をけん引するリーダーの育成	教育方法	1 課題解決型学習を基軸として実践教育を行う 2 講義、実習、農家研修を効果的に組み合わせて各人の能力に応じた教育を行う。 3 農業法人経営者、流通販売企業家など第一線の外部講師を活用する。 4 農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し必要な免許・資格取得を進める。
重点目標	1 入学予定者の定員確保 2 次代を創造する農業者の育成 3 学習・生活環境の確保 4 学生の意向を踏まえた進路指導	達成度	A 達成(100%以上) B 概ね達成(80~99%以上) C 不十分(80%未満)

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価					
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 2 日 現 在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】 本校では、オープン見学会や農業体験学習等、積極的に学生募集に取り組んできており、直近5年の受験倍率は1.29倍となっている。 一方、2年課程に入学してくる学生の大部分は農業に必要な肥料成分計算や農薬希釈などの基礎計算を理解できておらず、通常のカリキュラムとは別メニューでのフォローが必要となっている。</p> <p>【課題】 定員確保に向け、引き続き効果的な募集活動を効率的に実施するとともに、農業経営には肥料や農薬の計算が必要であることを入試の際に意識付けの必要がある。</p>	入学定員90名の確保	<p>①学生募集の充実 ・学校案内の送付 県内、隣接1都5県への案内送付 ・教育活動の情報配信等の広報活動の充実 HP・パンフレット等を活用した積極的な広報活動の配信 ②県内及び隣接県等の高校訪問の実施 ③オープン見学会、高校進路指導担当者説明会の実施 ④高校生宿泊研修及び農業体験講座の実施 ⑤地域及び関係機関との連携 ⑥各種イベントへの参加等 ⑦特色ある教育活動の情報発信 ⑧すべての入試区分の試験内容に基礎計算(肥料成分、農薬希釈等)を追加</p>	<p>①学生募集によって入学定員を確保できたか ②高校生の志願者が増加したか ③オープン見学参加者が増加したか ④宿泊や体験講座に参加した学生が入学志願者の増加に繋がったか ⑤現役高校生以外へも積極的に情報発信できたか ⑥HP・イベント・大学祭で積極的に発信できたか ⑦令和6年度以降の学生募集の選考基準に基礎計算能力が追加される見込みとなったか</p>	<p>①定員90名に対し入学予定者98名 ②高校生志願者58名(R3:72名)△14名 ③オープン見学会参加者207組358名(R3:84組168名)+190名 ④農業実習体験講座66名(内30名出願) ⑤熊谷市産業祭等に参加し本校の教育活動を地域に配信 ⑥各地域の教育連携会議に参加、ホームページ掲載動画視聴6,400回、卒業生からのメッセージ、教育活動PR随時掲載 ⑦入試方法の見直しについてはベンディング基礎計算の解説と類似問題を本校HP掲載するとともに、来年度入学生に対し入学後にテスト実施→基準に達するまで補講が続くことを周知</p>	A	<p>【課題】 ・就農及び農業関連産業への就職を希望する学生の確保 ・高校生や一般志願者に対し、本校の魅力を効果的に発信する方法 ・本校が求める学生像(アドミッションポリシー)の検討 【解決策】 ・日曜オープン見学会、個別相談会、夜間相談会の充実 ・HPの更新等の積極的な情報配信 ・学生募集要項の積極的活用 ・高校説明会、進路相談会への参加 ・農業実習体験講座の実施 ・高校の進路指導担当者向け説明の実施 ・「大学校のあり方検討会議」の設置</p>	令和5年3月22日	学校関係者からの意見・要望・評価等
2	<p>【現状】 高度な農業技術や知識を学び農業分野で活躍できる人材を育成するために、有識者や機械メーカー・専門家等、外部の教育力を積極的に活用する教育活動に取り組んでいる。</p> <p>【課題】 日頃から農業の基礎基本からICT・スマート農業等、農業に関わる幅広い視野と高度な生産技術・経営能力を育てる教育活動に取り組んでいる。しかし、農業経営や農業関連産業の在り方、生活や働き方等、従来の農業経営が徐々に変化している。将来の農業のDX化に対応する農業技術者や地域のリーダーの育成に引き続き取り組む必要がある。</p>	(1)スマート農業技術を活用した授業の実践 (2)先進的農業体験活動の実施	<p>①ICTやIoTを活用した先端的なスマート農業技術を活用した実践的な授業の実施 ②スマート農業技術を活用した講義、実演、演習、見学会の実施 ③先端技術の導入による経営改善効果の検討・検証</p> <p>①新規就農希望者支援 ・チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーの実施 ②先進農家体験活動の実施 ③農業認証取得のノウハウを生かした農業実習 ・有機JAS認定 ・野菜でのGAPの第三者認証取得</p>	<p>①先端技術の活用により栽培管理の実習を体験し身に付いたか。 ②専門家や技術者による先端的なデータ計測・分析方法の講義や実演・見学が実施できたか ③導入する先端技術の選択と導入による経営改善効果の両面から検討する授業が実施できたか</p> <p>①チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーが計画どおり実践できたか ②先進農家体験活動が実施できたか ③認証基準に沿った農業実習ができたか、また認証が取得できたか</p>	<p>①統合環境制御装置による栽培管理(施設、短期、花き) ②スマート農業の実践的な授業(水田6回、施設2回、露地4回、植木1回、花き3回、酪農1回、短期5回、有機1回) 最先端施設見学1年全員(イオンアグリ久喜、春日部みどりのパーク) ③外部専門家等の経営改善授業、スマートゼミ17名7回、スマート授業7回実施</p> <p>①チャレンジファーム取組者13人(昨年7人)、チャレンジカンパニー取組者16人(昨年16人) 熊谷市産業祭、年末年始の農産物販売会、本校販売所、職員への販売を実施 有機学生2名がマルシェ、直売所、飲食店等で生産物を販売 ②9/1~11/8(富良野8/16~10/21)で実施 富良野報告会実施(11/22) ③有機農業専攻、有機JAS認証取得 施設、露地、短期、有機の4専攻がS-GAP農場評価の見込み、全専攻でGAP実践</p>	A	<p>【課題】 基礎的農業技術を踏まえたスマート農業技術の知識、技術の習得 【解決策】 ・スマート農業技術習得者の育成及び指導資料の作成 ・民間企業や外部講師の活用 ・外部専門家による先端技術を導入した実践的な授業の実施 ・農業用ドローン、統合環境制御装置、直進アシストトラクタの導入と操作技術の習得</p> <p>【課題】 新規就農を希望する学生の支援及び農業を実践的に学べる学習環境の提供 【解決策】 ・チャレンジファーム、チャレンジカンパニーの継続実施 ・先進農家等体験学習の実施 ・販売実習、大学祭、熊谷市産業祭等での販売実習機会の確保 ・有機JAS認証、S-GAP実践農場取得による安全・安心な農産物の生産・販売</p>	令和5年3月22日	<p>・スマート農業は、使用する機械が高価なものが多く実際に購入して経営に活用するのは難しいのではないかと感じたが、既存の機械を使用することによって安価にできるのは良いと感じる。 ・地域の関係機関でも農家がスマート農業ができるように補助対策が進んでいる。 ・スマート農業を活用した農業経営者としての講義に取り組んでいることに感謝している。 ・ICTを活用した統合制御装置によって作物を管理している授業の様子が写真から理解できた。引き続き先端農業技術の習得に努めてほしい。</p> <p>・チャレンジファームやチャレンジカンパニーは新規就農を希望する学生にとって実践的に学べる学習環境であり、卒業後の活動に活かせることができるので大変良い。 ・2カ月間実施される先進農家等体験学習での経験は、将来の農業経営者となった時の支えとなる。特に富良野で体験した学生は、関東にない広大な規模の農地と大型の農業機械の操作等、貴重な経験ができたと感じた。 ・コロナで中止になっていた農業大学校祭をはじめ各種イベントが開催されたことで学生の教育活動が今後さらに広がると考える。 ・安全で安心な農産物を提供するための取組は引き続き指導をお願いしたい。</p>
3	<p>【現状】 日頃から専攻ごとに施設・設備の整理整頓や管理に努め、事故を未然に防止し、学生が学びやすい学習環境づくりに努めている。</p> <p>【課題】 実習では農業機械の操作を学ぶ授業が多く、農業機械や施設設備等を使用した授業では大きな事故に繋がるおそれがある。事故を防ぐには学生への安全指導と日頃の点検や管理を引き続き徹底する必要がある。 また、コロナ禍での教育活動を継続するためには感染対策を継続する必要がある。</p>	農作業実習中の事故ゼロ及び、新型コロナウイルス感染対策の徹底	<p>①安全指導の徹底 ・職員研修会の実施 ・実験実習における指導 ②日常的な施設・設備の点検 ・農業機械の点検・整備 ・販売実習棟及び実習施設の適正な管理 ③校舎内の施設・設備の定期的な安全点検 ・計画的な巡回による安全点検 ④新型コロナウイルス感染対策 ・新しい農業大学校5つの安心宣言の徹底 ・コロナの感染状況に応じた感染対策の徹底</p>	<p>①実験・実習時に安全指導が行われたか ②日常的に使用する農業機械等の点検・整備が行われたか ③校舎内の巡回や定期的な安全点検が行われたか ④新型コロナウイルスの感染対策が徹底できたか また、コロナ禍でも学生に学びの保障ができたか</p>	<p>①実験・実習時における事故ゼロ 学生への安全指導と日常の点検・管理の徹底 ②専攻ごとに施設・設備の整理整頓・管理 農業機械の点検整備の実施 ③校内の施設設備の点検及び修繕 ④学校の閉鎖基準を作成(学校閉鎖1回、専攻閉鎖5回) 校舎、トイレ内の消毒液、石鹸、紙タオルやパーテーション設置、マスク着用の徹底 産業医の校内巡視、衛生委員会の開催</p>	A	<p>【課題】 教育活動中の事故を未然に防ぎ、安全で安心な学習環境の整備 感染症5類引下げに対応した校内基準の作成と感染防止策の徹底 【解決策】 ・GAPの実践を基本とした教育活動中の安全教育の徹底 ・専攻施設内の整理整頓及び作業機械の定期的な点検整備 ・施設設備の修繕、管理 ・新型コロナウイルス5類引下げ対応策の検討</p>	令和5年3月22日	<p>・新型コロナウイルスの感染対策は徹底されていると感じている。学校でも4月1日以降に「マスクは外す。しかし強要はしない」等、新たな対策が必要となる。 ・以前、コロナの感染が拡大している重大な時期に後援会予算でマスクを購入させてほしいとの要望があった。今後も学生が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めてほしい。 ・今年度は、各地で強盗による事件が多発しているので、門や玄関の施錠、強盗犯への対応策など研修会も必要ではないか。野菜などの農産物の盗難は今までないようだが心配である。</p>
4	<p>【現状】 早い時期から計画的な進路指導を行い、就農や就職就農・農業関連産業等へ、高い進路決定のもと進路保証が図られている。</p> <p>【課題】 自営や就職就農を土台とした教育活動に取り組んでいるが、学生の多様化する進路先に対して、コース別学習や専門家の面談を積極的に実施し、確実な進路実現を図る必要がある。</p>	進路決定率100%	<p>①進路指導 ・コース別学習(自営就農・農家子弟・就職就農・関連産業)の実施 ・キャリアコンサルタントによる指導 ・法人を含む就農支援 ・農業法人等見学会・説明会 ②資格取得 ・卒業までに農業に関する資格を平年並み(1人2.7以上)に取得させる</p>	<p>①学生のニーズに対応した進路指導が行えたか。 ・学生の満足度 ・進路決定率</p> <p>②卒業までに農業に関する資格を平年並みに取得できたか</p>	<p>①卒業見込者の進路決定率:94% 就農率:68%(直近) コース別学習37回/年 キャリア面談延べ127人 求人件数92件(昨年73件) 農業大学校連携会議の実施 就農ガイダンス、農業法人説明会等8回/年 ②農業関係資格取得数2.8/人 造園技能検定2級2名取得 造園施工管理2級4名 農業技術検定2級優秀団体賞を受賞 全国農業大学校発表大会入賞</p>	B	<p>【課題】 希望進路の実現に向けた学生への支援効果的な指導体制による進路決定率100% 【解決策】 ・コース別学習の充実 ・キャリアコンサルタントの積極的な活用 ・就職・就農支援の充実 ・農業に関わる資格取得の推進</p>	令和5年3月22日	<p>・進路決定率100%という目標は少々高めか。 ・学生の就職支援に外部講師(キャリアコンサルタント)の方が指導していることが良く分かった。引き続き学生の進路指導をお願いしたい。 ・トラクタ免許やフォークリフト、各種建設機械の資格取得が学生の就職に活かせるものが多い。資格は学生の学習意欲に直接繋がるので今後も指導をお願いしたい。 ・コース別学習が学生の就職活動や進路決定に高い効果がある。 ・卒業後に担い手育成塾に入り実践研修に入る学生がいる。地域機関でも応援していきたい。 ・農業技術検定2級団体表彰はすばらしい。</p>